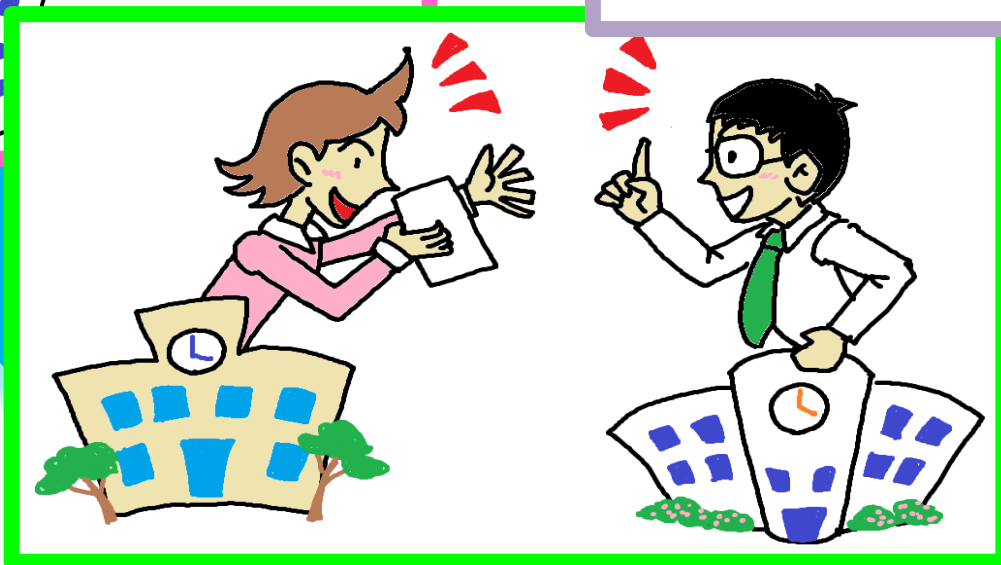
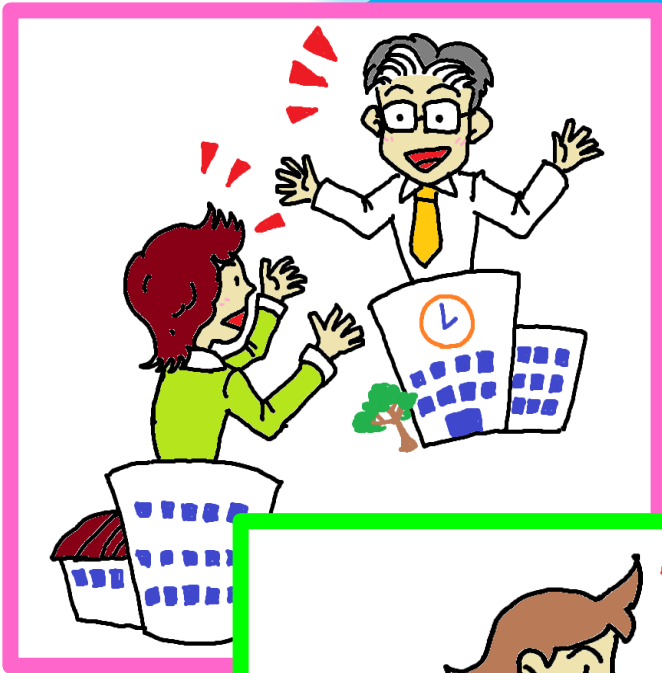


特別な支援が必要な児童生徒の 引継ぎの充実に向けて ～切れ目ない支援を実現するために～



特別な支援が必要な子供にとっては、ちょっとした一言や関わり方の工夫、配慮を行うことが、安心できる学校生活につながります。

特に、就学、進学時の移行期においては、就学、進学先の学校が、必要な支援を継続することで、新たな学びの場での最初のスタートをスムーズに切ることができ、その後の学校生活へ安心して向かうことができます。

移行支援シートや個別の教育支援計画等のツールも活用しながら、学校間の連携の充実を図りましょう。



学校間連携(引継ぎ)のポイント

～必要な情報の提供・収集, 整理・共有, 活用～

特別な支援が必要な児童生徒の引継ぎに関しては、移行支援シートや、個別の教育支援計画を活用しながら、確実に引き継ぐことが大切です。支援を充実させるための学校間連携のポイントを確認しましょう。

Point! 情報の提供・収集

- ・ 口頭による引継ぎだけでは、その後の確認が難しくなることから、移行支援シートなどの書面での引継ぎが望ましいです。
- ・ 入学直後に、特に気を付けなければならないことを中心に情報収集し、これまで行われていた具体的な手立てについて確実に引継いでください。
- ・ 移行支援シートの情報だけでは、児童生徒の実態や、よりよい手立てが分かりにくいことがあります。積極的に前在籍校に連絡を取って、確認しましょう。

楽しい学校生活を
送るために

移行支援シート

小学校等 → 中学校等

このシートは、進学先へ移行するに
必要と認められる児童や生徒について
伝え、進学先の新しい学校での学
校生活を送ることができるようになる
ためのシートです。
互に関心する学校の担任等に記入して
もらい、保護者の方や、進学先へお届
けください。
記入の際は、「移行支援シート作成
の留意点」を参照してください。

送る側の学校	届く側の学校
送る・届ける等	
姓 名	進学する学校名
姓 名	
所属機関・記入者	

Point! 情報の整理・共有

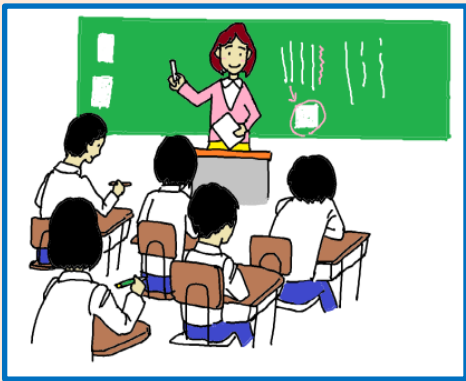


- ・ 特別支援教育コーディネーターが中心になっ
て、得られた情報を一覧にまとめ、職員が共通
理解するための基礎となる資料を作成するとよ
いです。作成した資料を、いつ、どの場で、誰
が確認するのか、校内支援体制を構築する流れ
を具体的に決めておくことも大切です。
- ・ 作成する資料は、「学習面」、「行動面」など、項目ごとに整理し、効
率よく確認ができるようにまとめることで、円滑に会議が進みます。

- 会議の中では、誰が、どのような支援を行うのか具体的な支援策まで整理してください。教科によって対応が違くと、児童生徒の実態によっては混乱したり、指導の効果が減少したりすることも予想されます。特に、教科担任制の中学校や高等学校においては、各教科担当者も会議に参加し、授業場面での具体的な対応を確認しましょう。

Point !

情報の活用



- 入学後、引き継いだ情報を基に、本人・保護者の意思も確認の上、校内委員会等で支援内容の妥当性や、具体的な支援策を検討しましょう。実践する中で、必要に応じて支援の内容を変更・調整していきます。
- 引き継いだ情報や、日々の指導の中で把握した児童生徒の実態を基に、個別の指導計画を作成してください。教科指導や学校生活上の具体的な目標を設定し、そのための手立てを講じることで、指導・支援が充実します。作成に当たっては、各教科担任など、関係する方々と協力しながら進めてください。
- 支援の内容や、本人の様子を細かに保護者に伝えることで、保護者の安心感や、学校への信頼につながります。同様に、前在籍校へも入学後の様子を伝えることで、引継いだ情報の活用状況が分かり、次年度以降も安心して情報を引き継ぐことができるようになります（夏季休業中に連絡会を設定するなど）。

**幼稚園・保育所等から小学校へ**

- 教科の学習が始まるなど、大きく環境が変わります。入学後の生活（教室の様子や、一日の流れ、新学期の学習内容等）について詳しく情報を得て、予想される具体的な姿をイメージしながら引継ぎをしてください。

**小学校から中学校へ**

- 教科担任制となることから、全般的な配慮事項と併せて、学びにくさを感じている教科における困難さや、その支援策等を具体的に整理して引き継いでください。

**中学校から高等学校へ**

- 鹿児島県公立高等学校入学者選抜において、障害を理由とする合理的配慮を求めることは、不利になるものではありません。入学者選抜実施要綱に基づき、校長を通じて、必要な配慮や、障害の状況、現在取り組んでいる支援内容などを、進学希望校に丁寧に伝え、提供可能な配慮について合意形成を図ってください。

**高等学校から進学・就職先へ**

- 関係機関との連携を視野に入れ、対人関係や作業態度、余暇活動など、社会で生活する具体的な姿をイメージしながら情報をまとめることが大切です。
- 就職を希望する場合は、本県で作成している「就職支援シート」等を活用することで、必要な支援や配慮事項を、職場や周囲の人に確実に引き継ぐことができます。
- 就職については、ハローワークや障害者就業・生活支援センター等との連携を図ることも有効です。

保護者との連携のポイント

～寄り添う姿勢を大切に～

支援に必要な情報を収集し、実際の指導・支援に活用するためには、保護者の理解と協力は不可欠です。スムーズな引継ぎのためには、保護者との関係作りをふだんから大切にしていける必要があります。

※ 教育相談などの際には、p.6の「保護者の皆様へ」も活用してください。

Point !

思いを受け止め、寄り添う姿勢で

- まずは、保護者の思いを受け止め、これまで育ててきた保護者の努力を十分に認めて、寄り添う気持ちで接することで、信頼関係を築くことが大切です。
- 保護者によっては、「障害を受け入れていない」、「客観的に子供を見ていない」という印象をもつ場合もありますが、我が子の障害を受け入れるまでには、様々な段階があり、相当の時間が掛かることを理解し、保護者の心情を推し量る姿勢が必要です。

Point !

プラス思考の言葉掛けを意識する

- 「最近、字が丁寧に書けるようになってきました」、「先生の手伝いを自分から申し出てくれました」など、日々の成長を保護者にこまめに伝えましょう。そのことで、保護者は、「我が子をしっかりみていてくれる」という安心感を抱きます。
- 「最近、苦手な学習にも落ち着いて取り組むことができるようになってきました。ご家庭で、粘り強く取り組んでいただいているからですね」など、保護者の努力を認める言葉掛けもしてください。



- 現在の課題についても、マイナス面のことだけを伝えるのではなく、「今ここまでできますよ」、「〇〇があれば、〇〇できますよ」など、具体的な手立てを踏まえながら、前向きな提案をしましょう。
- 目の前の課題を改善・克服するための具体的な手立てを、保護者と一緒に考える雰囲気をつくることで、連携も強くなります。



Point !

将来の姿と一緒に考える

- 将来の自立と社会参加のために、保護者と一緒に子供の将来や、「ありたい姿」から、必要な支援を考えていく視点も大切です。将来をしっかりと見据えることで、今、何に取り組むべきか、誰と連携するべきか、長期的な展望をもって、手立てを考える機会をつくりましょう。
- 保護者には、「入試への影響があるのでは…」、「引き継いだ情報がどう扱われるのか不安…」など様々な不安が考えられます。その不安を払拭するために、就学・進学先の学校の情報や、進学後での支援の取組などについて、正確な情報を収集し、丁寧に伝えることが大切です。



保護者の皆様へ ～移行支援シートについて～

就学・進学に際しまして、お子様の情報をコンパクトにまとめ、確実に引き継ぐためのツールとして、「移行支援シート」があります。

移行支援シートを活用して、事前に就学先、進学先に情報を伝えておくと、これまで在籍校（園）で行っていた支援を、引き続き就学先、進学先でも実施することにつながり、お子様が安心して学校生活を送ることができます。

新しい環境での生活をスタートするに当たって、就学・進学先の学校に知っておいてもらいたいことや、配慮してほしいことなどを園や学校の先生方と相談しながら、まとめましょう。

うちの子は…

- ・ 忘れ物が多いから心配だなあ…。
- ・ 文字を書くのがとても時間が掛かるから、黒板を書き写すのが大変そう…。



移行支援シートに整理して引き継ぎましょう

担任の先生



保護者

準備する物は、メモ帳に書くように、本人に指示してもらえると、ありがたいです。



ノートに書写する際は、赤色のチョークで囲んだ部分のみを書くように伝えました。書く量を減らすことで、安心して授業を受けていました。



就学・進学先の先生

なるほど！ちょっとした工夫で、自分でできることが増えそうですね！



こちらのQRコードから移行支援シートの紹介ページがご覧いただけます。

※ 移行支援シートに関する問合せ先…各学校（管理職、特別支援教育コーディネーターなど）

鹿児島県教育庁義務教育課特別支援教育室（099-286-5296）

移行支援シート作成のポイント

～必要な情報をコンパクトにまとめる～

移行支援シートは、必要な情報をコンパクトにまとめ、就学・進学先へ引継ぎ、継続した支援が提供されるよう作成・活用するものです。適切な支援を就学・進学先へつなぐためのツールとして、是非活用してください。

1 現在行っている主な支援の内容 〈中学校・特別支援学校（中学部）→ 高等学校・特別支援学校（高等部）〉

(1) 資料の観点例を参考に各項目について、支援度を記入してください。

◎：配慮・支援の必要はない

○：何らかの配慮・支援が必要

△：多くの配慮・支援を要する

(2) ○又は△の項目について、これ

Point !

「現在行っている主な支援の内容」

- ・ 「健康・身体機能」などの四つの大項目の具体的な内容については、移行支援シートの最後に示してある資料「各項目の観点例」で確認してください。
- ・ 必要な情報を引き継ぐためのシートであることから、全ての項目を書かなければいけないものではありません。
- ・ 特に理解が必要なことや、これまでに工夫してきた支援を整理して書きましょう。
「〇〇をすれば、〇〇ができる」などの具体的な支援策について記入することが大切です。提供していた合理的配慮の内容を整理して記入してください。

	項目	支援度
健康・身体機能	① 健康面に関する配慮	
	② 視覚	
	③ 聴覚	
	④ 姿勢保持	
	⑤ 移動	
	⑥ 手指の動き	
	⑦ その他（ ）	
身辺処理・生活	① 食事	
	② 排せつ	
	③ 衣服の着脱	
	④ 片付け	
	⑤ 用具の使用・活用	
	⑥ 役割（手伝い、係活動など）	
	⑦ 金銭	
	⑧ その他（ ）	
社会性・行動	① 指示や話の内容理解	
	② 意思の伝達	
	③ 集団行動・遊び	
	④ 決まりの理解や	
	⑤ 人とのかかわり	
	⑥ 感情のコントロール	
	⑦ 危険回避・防	
	⑧ その他（ ）	
学習	① 聞くこと	
	② 話すこと	
	③ 読むこと	
	④ 書くこと	
	⑤ 計算すること	
	⑥ 推論すること	
	⑦ 描くこと	
	⑧ その他（ ）	

Point !

不要な項目を削除して、必要な項目の枠を広げたり、①や②などの小項目を削除したりするなど、形式を変更しても構いません。

※ 例：「社会性・行動」、「学習」の項目以外を削除し、記入が必要な項目のみ抜粋して記入する。

(例)

1 現在行っている主な支援
(1) 資料の観点例を参考に各項目について支援度を記入
(2) ○又は△の項目について、これまで行ってきた配慮や支援

	項目	支援度	配慮・支援
社会性・行動	意思の伝達		
	集団行動・遊び		
	人とのかかわり		
学習	読むこと		
	書くこと		

Point !

「興味・関心等」

- ・ 子供が得意なことや好きなことは、就学・進学先で、学習への意欲を高める方法や、新しい友人関係をつくる際のヒントになります。
- ・ 嫌いなものや苦手なことは、感覚的・生理的な拒否感を抱いている場合もあるので、新年度が始まる際に配慮すべき重要な情報となります。

項 目		主に中学校で行ってきた配慮・支援
興 味 ・ 関 心 等	得意なこと 好きな活動	
	苦手なこと 嫌いな活動	

2 進学先の学校に伝えたい支援内容

(1) 進学後も継続して取り組んでほしい内容や配慮事項

※ これまで大事にしてきた指導内容・方法（工夫）（環境や働き掛けの工夫、支援のこつ、情緒的に不安定になったときの対応など）、これまでの経験や気づいてきたこと、これからも伸ばしてほしいこと、そのための手立てや配慮事項など

Point !

「進学先の学校に伝えたい支援内容」
 就学・進学先の学校が、どのような情報があれば支援がスムーズにできるかを考えながら、整理してみましょう。

(2) 進学後の学校生活に関する要望・期待など（本人・保護者記入欄）

Point !

シートの作成と情報の共有に当たっては、大切な個人情報を扱うことから、保護者の同意が基本となります。このため、シートには、保護者の同意を示す署名欄が設けられています。

や関係する支援機関と共有することに同意します。

名前（本人・保護者） _____

移行支援シートに関するQ & A

Q1：作成の対象は特別支援学級の児童生徒だけですか？

A：特別な支援が必要な全ての幼児児童生徒が対象となります。

特別な支援が必要な幼児児童生徒が、就学・進学先で継続して適切な支援が受けられるために作成するものなので、特別支援学級や、通級による指導を受けている児童生徒だけではなく、通常の学級に在籍している児童生徒についても、必要があれば、作成・活用をしてください。



Q2：作成までのスケジュールは？

A：保護者への周知から作成まで、計画的に準備をしましょう。

- ・ 学校便り等を通した移行支援シートに関する情報発信や、教育相談等での保護者への理解啓発を、年間を通して計画的に進めていきましょう。
- ・ なるべく早い時期から、保護者と作成について相談を始められると、引き継ぐ内容を十分検討したり、変更・調整をしたりすることができます。



Q3：どのように引き継げば良いのでしょうか？

A：引き継ぎやすい方法で。就学・進学先にも確認を。

学年末の進学先の学校との連絡会等で、説明しながら渡したり、公簿類と併せて送付して、改めて説明の機会を設けたりするなどの方法が考えられます。保護者が就学先へ持参し、説明することもできますので、就学・進学先や保護者と、より取り組みやすい方法を検討してください。引き継ぐ際には、誰が誰に渡したということが明確になるように、記録をしておくなど、渡した（渡された）ことの確認を徹底してください。

Q4：引き継いだ移行支援シートの取り扱いの注意点は？

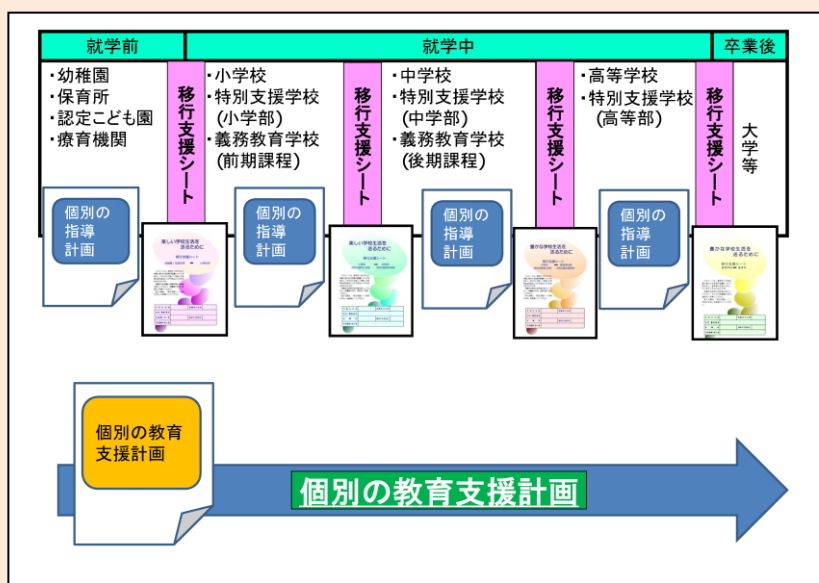
A：個人情報の取り扱いには注意してください。

個人情報が含まれていますので、誰がどこに保存するのかを校内で共通理解しておき、校内のケース会議や、保護者との教育相談等に活用できるようにしておくことが大切です。資料としてコピーをした場合は、会議後にシュレッダーにかけるなど、適切に処理をしてください。なお、保存期間の決まりは特にありませんが、就学・進学先からの問い合わせに対応できるように、一定の期間は写しを保管しておくといでしょう。

Q5：個別の教育支援計画や個別の指導計画とは違うのですか？

A：作成する目的や内容等が異なります。

- 個別の教育支援計画は、乳幼児期から学校卒業までの長期的な視点に立って、一貫して的確な支援を行うことを目的として作成するもので、医療、福祉などの関係機関の取組を含め、その子供に関わる方々がそれぞれの立場でできる支援策等を明記するものです。
- 個別の指導計画は、学校での指導について個々に応じた指導目標や指導内容・具体的な手立て、評価などを単元や学期ごとなどに記述するものです。それぞれの目的等に応じて活用しましょう。



こちらのQRコードから特別支援教育に関する資料等を紹介しているページをご覧いただけます。

学校間連携の取組例

～ふだんの連携から引継ぎの充実へつなげる～

課題例：1

来年度入学予定の児童の情報がほしいのだけれど、〇〇園は、移行支援シート等のことをよく知らないみたいだ。支援が必要な児童の情報のやり取りや、小学校からの情報提供が、もっとスムーズにできればいいのだけれど・・・。



小学校教員

取組例

- 校区内の幼稚園等に移行支援シートを配布し、全ての園児について情報提供を呼び掛けている。
- 校区内の幼稚園等に、夏季休業中に特別支援教育コーディネーターや、特別支援学級担任が訪問し、情報交換をしている。
- 小学1年生の4月の指導計画（2週間分程度）を、幼稚園等に配布し、指導の参考にしてもらっている。
- 年2回の幼保小連絡会で、入学までに幼稚園等に取り組んでほしいことを伝えたり、入学後の児童の様子について情報交換したりしている。

課題例：2

進学を希望している高等学校に、支援が必要な生徒の情報を伝えようと思うのだけれど、中学校や保護者が、高等学校と情報交換する場をもう少し充実できないものかなあ・・・。



中学校教員

取組例

- 生徒が希望する高等学校に、学校訪問（授業参観や学校説明会等）を依頼している。
- 特別支援学校等が開催する、中学校と高等学校の情報交換の会（夏季休業中や、合格発表後）に積極的に参加している。
- 合格発表後に、高等学校での教育相談に保護者と一緒に参加している。
- 高等学校の合理的配慮の提供についての申出書を活用している。